

倉敷市真備町の小学校でアナウンサー朗読会を開催しました

先月16日、倉敷市真備町の倉敷市立菌小学校で、同校と倉敷市立川辺小学校の5・6年生約200人を対象に、「OHKアナウンサー朗読会」を開催しました。去年7月に発生した西日本豪雨の被災地の小学校で開催した今回の朗読会では、被災により本が浸水したり、読書の機会が減っていたりする児童たちに、朗読を通じ読書するきっかけを届けられればとの思いから企画したもので、篠田吉央、森夏美、今川菜緒、北村麗の4人のアナウンサーが訪問しました。



午前10時から始まった朗読会では、普段アナウンサーが行っている発声練習を体験してもらいました。まずは、響きのある声を目指し「腹式呼吸」に挑戦。仰向けになりお腹に手を当てて呼吸し、しっかりと空気が吸えているかを確認したあと、声を出していきました。

次に、滑舌練習として、歌舞伎の演目「外郎売（ういろうり）」を練習しました。アナウンサーのお手本に合わせ、言葉の意味や時代背景、掛詞になっていることなども解説。

代表して発表した津嶋空ノ助君（菌小学校6年）は「難しかったが、言葉の意味を考え、口をはっきり動かすことの大切さを学びました」と満足した表情で話していました。



岡山放送アナウンサーによる出張朗読会は今回が105回目ですが、西日本豪雨後、被災地域での開催は初となります。復旧・復興に向け児童たちの生活が落ち着きを取り戻す中、身近な所にある【絆】について考えてもらえればと思い、オリジナル作品、「まねき福バスのお客様」を朗読しました。小学5年の男の子がバスの中で様々な人と出会い、絆を感じていくストーリーで、子供たちは真剣なまなざしで聞き入っていました。

朗読会終了後、児童の皆さんはアナウンサーと笑顔でハイタッチし、それぞれの教室に戻っていきました。

この朗読会の模様は当日夕方6時14分からの「OHK Live News 614」で放送いたしました。

